

## 第7回調査分析部会 議事要旨

1. 日時：平成25年10月29日（火） 16:00-17:30

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、青木部会長代理、秋山委員、五百木委員、橋本委員、渡邊委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、森宇宙戦略室参事官、深井宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) インド及び中国の宇宙政策等について

JAXA、SJACから資料1-1、1-2、2に基づいてヒアリングを行った。  
主なヒアリング内容は下記の通り。

### <インド>

- 2012年に国家開発審議会承認された第12次5ヵ年計画において、以下の目標を設定。①衛星通信及び航行測位の強化、②地球観測分野でのリーダーシップ、③GSLV MkⅢロケットの運用開始、④宇宙科学、月探査、火星周回、太陽観測、⑤スピンオフの促進
- インドの外交は多極主義を志向。ロシアとの伝統的な友好関係に加え、米国やアジアとの関係強化を図っている。
- ISRO（インド宇宙研究機構）が開発した宇宙機器及びサービスを国営企業のAntrix社が商業展開している。Antrix社は、欧州EADS-Astrium社と提携し、通信衛星の共同開発やEADS-Astrium社のSpot-6の打ち上げを実施。

### <中国>

- 宇宙開発は総合国力の向上等の観点から党・国家において高いプライオリティを保持。2期10年という長期政権の下で継続的に宇宙政策を推進。
- 2011年の宇宙白書では、衛星応用産業や新興産業の発展促進等を進めるとともに、知的所有権、標準化等に関する取組を強化している。
- CASC（中国航天科技集团公司）及びCASIC（中国航天科工集团公司）が国営企業として宇宙開発を実施。
- 新興国に対して、衛星製造と衛星打ち上げサービスをセットで販売。これまで、ナイジェリア、ベネズエラ、パキスタンの通信衛星を打ち上げ。

以上